

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)  
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association of pre-pregnancy physical activity with obesity in offspring: The Japan 2 Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル:

妊娠前の身体活動量と3歳児の肥満との関連

ユニットセンター(UC)等名: 神奈川ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Obesity

2022年:

DOI: <http://doi.org/10.1002/oby.23516>

筆頭著者名: 野田 雅裕

所属 UC 名: 神奈川ユニットセンター

目的:

本研究では、妊娠前の母親の身体活動量と3歳の子どもの過体重/肥満との関連を調べることを目的とした。

方法:

母親の妊娠前の身体活動量は International Physical Activity Questionnaire short version を用いて低活動群、中活動群、高活動群の3群に分類した。子どもの体格の評価は3歳時の身長と体重から Body Mass Index (BMI) を計算し、日本人の BMI の 85 パーセンタイル以上を過体重/肥満、95 パーセンタイル以上を肥満と定義した。妊娠前の母親の身体活動量と3歳時の過体重/肥満、肥満との関連について多変量ロジスティック回帰分析を行った。

結果:

エコチル調査の参加者のうち 65,245 組を対象とした。母親については、低活動群が 48.7%、中活動群が 32.7%、高活動群が 18.6%であった。それぞれの群で過体重の子どもの割合は 24.9%、24.6%、25.9%、肥満の子どもの割合は 9.4%、9.2%、10.4%であった。母親の身体活動量と3歳の子どもの過体重と肥満の関連について、母親の社会背景因子や周産期情報、子どもの生活様式などで調整した多変量回帰分析を行ったが、妊娠前の母親の身体活動量と3歳の子どもの過体重と肥満とは関連を認めなかった。

考察(研究の限界を含める):

妊娠前の母親の身体活動量と3歳の子どもの過体重/肥満と肥満とは関連を認めなかった。これは数少ない国外での研究と一致していた。研究の限界として、今回、過体重と肥満の判定に BMI を使用したが、この指標のみでは筋肉量が多い子どもや低身長の子どもの対して、過体重や肥満を過大評価してしまう可能性もあり、母親の身体活動量と3歳の子どもの体格の評価には、詳細な体組成の指標を含めて改めて検討する必要がある。ほかに、本研究では、身体活動量を質問票で評価したこと、子どもの身長と体重を母子手帳などからの転記で把握したこと、という情報バイアスの存在が考えられる。また、年上の兄弟の存在は母親の身体活動量や子どもの運動量などに影響すると考えられるが、家族構成の情報が得られなかったことも限界点の1つと考えられる。

結論:

母親の妊娠前の身体活動量と3歳の子どもの過体重/肥満、肥満との関連は認められなかった。